

えんだより 1がつ



2023. 1.

発行: 桜本保育園

044(288)2545

あけまして おめでとうございます

あたら とし
新しい年が はじまりました。干支の「う…うさぎ」のよ
うに 飛ぶときには やりたいと思う「じぶんのきもち」
に むかって 飛びたいですね。

さくねん
昨年までは 新型コロナウィルスの「恐れ」から やり
たいことよりも やらなければならないことが 優先され
た3年間でした。

ねんまつ まいあさ
年末に 毎朝のように いっしょに 遊んでいる子が
給 食を食べている わたしのそばに きて 不思議そう
な顔をして 「せんせい おかあ へん！」と なんども
いいます。 その子は 별님 (3歳児) さん。マスクを
はず 外した 顔を しっかりとみたら 想像していた顔と ち
がったのでしょう 「へん！」と…。 「これが わたし
の 顔よ」と おもわず 答えてしまいました。

また 乳児クラスの Family Joyful Day の感想に
「初めて ママたち同士 お話できて うれしかった」
というのが 多くありました。 おやこで ゆっくり時間
を 共有する プログラムを してなかったことを
痛感しました。 このあいだ 卒園したママから 「ひと
みしりだから 子育てなかまが つくれなくて…。 保育
園のときに もっと 話しておけばよかった。」という
話を ききました。 毎日 送り迎えがあり 大人同士が
であう機会が多い 保育園です。でも 「よちよちの親」
が ささえあい 子どもたちを ゆったりと 「はぐくむ
おや親」になるには であうだけでなく なかまになるものが
必要だと 改めて 教えられました。 出会いの場所とし
ての 保育園の 役割を 考える出来事でした。

ことし
今年は 「恐れる」だけでなく 保育園にも求められてい
る 大切なことを 実現するために 挑戦することを
忘れず また 一年間 歩んでいきます。

ほんねん
本年も よろしくお願ひいたします。

(Y)

1月のよてい

13日 にじいろメニュー
18日 えんじけんしん 園児健診
24日 Family Joyful Day
25日 Family Joyful Day
26日 わくわくひろば
27日 にじいろメニュー

2月のよてい

11日 すぱーすPAZ



あけましておめでとうございます

Chúc mừng năm mới

Feliz año nuevo

Happy new year

Maligayang bagong Taon

새해 복 많이 받으세요

Feliz Ano Novo

新年快乐

سال آئینده سال خیل خوب باشی



にゅーす あるりむ ばりた
News・おしらせ・알림・balita

★ 2月11日(土) 今年(ことし)は すぱーすPAZ
の イベントを おこないます。
ミニバザーの協力をお願いいたしま
す。

★ 4月に向けて 保育士と 看護師の
募集を おこないます。
いろいろなところで
求人サイトを
ご紹介ください。



いっしょ よろこ
「一緒に喜んでください」

「あなたがたの中に、百匹の羊を持っている人がいて、その一匹を見失ったとすれば、九十匹を野原に残して、見失った一匹を見つけ出すまで捜し回らないだろうか。

そして、見つけたら、喜んでその羊を担いで、家に帰り、友達や近所の人々を呼び集めて、『見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください』と言うであろう。」

(ルカによる福音書15章 4～6節)

새해 복 많이 받으세요. 明けましておめでとうございます。新年、皆さまの健康が守られ、神さまの平安と祝福が豊かにありますよう、お祈り申し上げます。

2023年、新年はどのような1年になるのでしょうか。2020年から続いているコロナ禍がわたしたちの生活に大きな爪痕を残し、たくさんのいのちが失われ、多くの人々に苦しみを与えました。振り返ってみますとこの3年間、未知のものと闘い、限界に近いストレスを抱えながらも、その時々知恵を出し合い工夫を重ねて、乗り越えることができたことを思うと少しほっとします。同時に、忘れてならない大切なメッセージがあることに気づかされます。

2023年最初の聖句は、「見失った羊」のたとえ話からです。徴税人や罪人が話を聞こうとイエスさまに近寄ってきました。するとファリサイ派の人々や律法学者たちは「この人は罪人たちを迎えて、食事まで一緒にしている」と不平を言いました。それでイエスさまはこのたとえを話されました。

このたとえ話を通してイエスさまは、不平を言う人々に対して、その当時「貧しく弱い人々」が「罪人」というレッテルをはられ、疎外されている現実に向き合うよう促し、問いかけていると思います。羊はとてもデリケートな生きもので、1匹だけで孤立すると、そのストレスでダメージを受けるそうです。「羊飼い」は見失った1匹を探しに出かけます。あきらめることなく見つかるまで探し回ります。そうして見つかったら喜び、近所の人々を呼んで「一緒に喜んでください」と喜びを分かち合います。

人も一人では生きていくことはできません。そもそも人を排除することなど神さまの御心ではありません、むしろ排除されている人々と共に生きることこそ、神さまは最も喜んでくださるとイエスさまは教え、小さくされた人々と共にいてくださいます。

2023年は、厳しい現実においても、誰もが大切にされ、みんなが「一緒に喜ぶ」ことができる年でありますようにと願っております。

(チャブレン 鄭富京)

12月のフォト



23日 おひるねから おきたら
ぶれぜんとか とどいてました！

